

令和3事業年度における業務の実績等に関する報告書



地方独立行政法人 天王寺動物園

目 次

1. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等	2
大項目1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	2
大項目2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	6
大項目3 財政内容の改善に関する事項	8
2. 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画	12
3. 短期借入金の限度額	12
4. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画	12
5. 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	12
6. 剰余金の使途	12
7. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則(令和3年3月31日大阪市規則第63号)で定める業務運営に関する事項	13

1. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 1-1	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上 （1）展示動物の計画的な導入・確保 （2）魅力的なイベントの企画・実施 （3）積極的な情報発信 （4）質の高い来園者サービスの提供
------------	--

中期目標	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上 多くの方に来園したいと思っていただけるよう、展示動物の充実により天王寺動物園の魅力を向上させるとともにその魅力発信を強化する。また、再度来園したいと思っていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。 (1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。 (2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。 (3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。 (4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）展示動物の計画的な導入・確保						
来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。	獣舎整備計画等に基づき、動物導入計画を策定する。これに伴い、必要に応じてコレクション計画、飼育方針文書等も変更する。	1	○R3年度内に動物導入計画を策定し、必要に応じてコレクション計画、飼育方針文書等も変更した。 ○第1期リニューアル計画が確定したことから、他園への搬出希望動物を選定し受け入れ先を探した。	Ⅳ		
	JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理を継続して担当する。（ヨウスコウワニ・ホッキョクグマ・シンオザル）	2	○JAZA（日本動物園水族館協会）の各委員会の委員を継続するだけでなく、あらたに複数の委員を受嘱した。 ▪生物多様性委員会 4種3名 ▪安全対策委員会 1名 ▪総務委員会 1名 ▪教育普及委員会 1名	Ⅳ		
	JAZAもしくはWAZA（世界動物園水族館協会）の学術研究部や普及啓発部の開催する研究会等並びに地域別会議等に参加・協力し、園内で内容を報告する。	3	○参加研究会・研修会：10件 ○研究会・研修会での発表：1件 ※いずれも受講後は課内職員全体で共有した。	Ⅲ		
（２）魅力的なイベントの企画・実施						
誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。	イベント企画実施の戦略的な指針を策定する。（【6】に関することも含む。）	4	○指針は教育アクションプランとして取りまとめ、10月にホームページにおいて公表するとともに、以降の各イベントについては、3つの視点（親しみやすさ、行動の選択肢、即改善）を踏まえて実施した。	Ⅳ		
	これまで取組んできたイベントを継続しながら効果検証を実施する。	5	○効果検証に必要な評価基準を作成し、実施イベントについてアンケートなどを参考に効果検証を実施した。 ○検証結果を教育アクションプログラムや次期イベントに反映していく仕組み作りを行った。	Ⅲ		
	近隣商業施設や交通機関等との連携に取組む。	6	○近隣商業施設等との連携 (1)セレッソ大阪主催（新規）9月14日～10月10日 あべのHoopに設置されるセレッソ大阪の期間限定ポップアップストアとの相互送客のためのイベント （内容）園内に設置した動物クイズの回答をあべのHoopのセレッソ大阪のショップ「アベセレ」で伝えと記念品プレゼント。またこの取組のPR動画を園内で撮影し、セレッソ大阪の公式YouTube（登録者数27,800名）で流すことにより動物園への集客を図った。 (2)東急不動産SCマネジメント株式会社（あべのキューズモール運営会社）主催11月27日 スゴワザの謎に迫る！「プロQ学園」 （内容）プロフェッショナルに触れていただくワークショップ。 天王寺動物園では、獣医師の仕事を中心に実施した。 ○交通機関との連携 (1)オオサカメトロ乗車券 OSAKA PiTaPa・エンジョイエコカード）による提示割引	Ⅳ		

	感染症拡大防止対策に留意し、イベントを実施する。	7	○すべてのイベントについて感染症防止対策を講じつつイベントを実施した。 ＜主な開催イベント＞ ・7月 戦時中の動物園展 ・8月、10月 ナイトズー ・9月 敬老の日イベント ・11月 獣医ショー ・11月 カバの歯磨きイベント ・12月、1月 干支の動物展 ・3月、4月 生物多様性展	Ⅲ		
（３）積極的な情報発信						
ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。	効果的でタイムリーな情報発信を行うために広報戦略を策定する。	8	○広報戦略を策定し、情報発信手法の一つであるTwitterを新たに開設した。	Ⅳ		
	ホームページの多言語化について、未対応ページの拡充に向けて、対象とする情報の選別等を検討する。	9	○ホームページの多言語化対応状況を把握し、多言語化の対象とする情報を検討した。 ○上記を踏まえ方針案を策定し、広報戦略の一部に位置付けた。	Ⅲ		
	メディアへの継続的な情報提供を行う。	10	○情報提供による効果としてホームページのアクセス数増加を確認した。 ホームページアクセス数 R3 6,284,331 ＜参考＞ R2 5,097,412 R1 5,449,966 H30 5,499,166	Ⅳ		
	感染症防止対策を踏まえた効果的な情報発信を検討し実施する。	11	○園内に、感染症防止対策に関するポスターを掲示した。 ○両ゲートのデジタルサイネージにお客様へのお願いを掲載した。 ○10時から1時間ごとに、感染症防止に向けての啓発放送実施した。 ○ホームページに感染症防止対策およびお客さまへのお願いを掲載した。 ○再開園のプレス資料に感染症防止対策およびお客さまへのお願いを掲載した。	Ⅲ		
（４）質の高い来園者サービスの提供						
来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。	ホスピタリティマインド醸成のための体系的な研修計画を立案する。	12	○３月に外部講師を招聘し全職員を対象に研修を実施した。	Ⅳ		
	園内の美観の保持について、定期的に点検する体制と仕組みを構築する。	13	○園内美観保持の観点から定期的に行う園内巡視体制・方法を構築し、点検結果を踏まえて修繕などの措置を実施した。	Ⅳ		
	園内における情報提供の多言語化指針を策定する。（【9】とも連携）	14	○園内掲示物および多言語化対応状況を把握した。 ○多言語化の対象とする情報を検討した。 ○方針案を策定し、広報戦略の一部に位置付けた。	Ⅲ		
	ホッキョクグマ舎の基本設計（令和3年度着手）をユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。	15	○施設整備会議にて基本設計に反映する内容を定め、ホッキョクグマ舎新築工事 基本設計等業務委託受託者に、BF（バリアフリー）UD（ユニバーサルデザイン）を取り入れるよう指示した。	Ⅲ		
	直営時から実施しているゲートへのアンケート箱設置に加え、さらに多くの来園者からの声を収集し、分析検証、園運営へ反映させる仕組みを構築する。	16	○毎月100件を目標にアンケート収集をし、アンケート結果を法人全体で共有するとともに、分析・検証した結果、改善が必要なものについては改善を行った。	Ⅳ		
	来園者の意見も踏まえWeb決済も含めてキャッシュレス決済の拡充を検討する。	17	○寄附、ファンクラブ制度にクレジット払いを導入した。 ○キャッシュレス決済については園内事業者と連携し、一部導入済み。入園時のキャッシュレス化については、委託業者と調整し今後の方針を策定した。	Ⅳ		

大項目 1ー2	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進 （１）間近で動物を感じる機会の提供 （２）園内外における学習機会の提供 （３）NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供
------------	--

中期目標	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進 平成30年８月に策定した「天王寺動物園教育ポリシー」を踏まえて教育普及機能を強化し、飼育動物の生態のみならず、野生動物を取り巻く地球規模の環境問題も視野に教育普及活動を行い、来園者の行動変容に繋げる。 (1)間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する。 (2)園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。 また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。 (3)NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供 希少動物の保護や環境保護の取組を行っているNPO法人やボランティア等と協働した独自のキャンペーン等により学習機会を提供するとともに、園外で実施されるキャンペーン等にも積極的に参画することで広く学習機会を提供する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）間近で動物を感じる機会の提供						
ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。	法人の動物福祉倫理規定を踏まえ、ふれあい事業に対する当園の方針を定め（上半期）、これに整合する具体的な「プログラム」を策定のうえ、事業の検証可能な状態で「新ふれあい広場」の開業を迎える。（令和４年春予定）	18	○動物へのふれあいのあり方について法人内で検討し、新ふれあい施設で実施するプログラムを策定した。また、園内事業者と運営方法についての調整を行うとともに、新年度のオープンに向けて準備を進めた。	Ⅲ		
	プログラムの策定にあたっては、感染症防止対策に留意する。	19	○プログラムの策定にあたっては、感染症対策として人数制限を行うとともに、テンジクネズミのなどでなでタイムは、当面実施しないこと決定した。	Ⅲ		
（２）園内外における学習機会の提供						
教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。 また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。 さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。	教育ポリシー・新学習棟の活用を踏まえた教育普及アクションプログラムに基づき園内外におけるメニューを実践する。	20	令和3年度実績 ○ディスカバープログラム実施 ▪ズー・スクール（講話） 実施27件 ▪職場紹介（学習棟7件・会議室2件） 実施10件 ▪出張講話 実施12件 ▪ガイドウォーク 実施1件 ▪貸出キット 3件 ○獣医ショー開催（ミューズー） ○干支の動物展開催 ○生物多様性展	Ⅲ		
	各メニューでは、受講者・参加者へのアンケートを実施するなど改善の具体的な材料を収集のうえ、前項アクションプログラムに反映する。	21	○イベント時はQRコードを用いたモバイル（スマートフォン）アンケートを、継続的に実施した。 ○学校向けディスカバー・プログラム利用者（教員）アンケートには、「環境保全に対して身近にできること（行動変容）」を記載していただき、意識づけを行った。 ○改善事項の収集と分析を行い、アクションプランに反映した。また、アンケートでディスカバープログラム（講話）の内容に対する意見を収集し、内容改善につなげた。	Ⅲ		
	各メニューでは、受講者等参加者が自らの判断で選択可能かつ、即実践可能な行動の選択肢（寄付・エシカル商品購入など）を用意する。	22	○下半期実施のイベント等では、ファンクラブ募集案内看板をイベント毎に設置し、積極的に紹介した。 ○アンケートに、参加者の意識の変化に関する項目を設け、実践を促した。 ○干支の動物園展では、WWFジャパンの保全のための募金を選択肢として用意した。	Ⅲ		
	多言語も含めた掲示物作成方針を策定する。（【14】とも連携）	23	○園内掲示物およびホームページの多言語化対応状況を把握し、多言語化の対象とする情報を検討した。 ○方針案を策定し、広報戦略の一部に位置付けた。	Ⅲ		
	感染症拡大防止対策に留意し、教育プログラムを行う。	24	○新学習棟ホール（収容最大席240名）での講話については100名以下に制限した。 ○学習棟出入り口自動扉は常時開放し換気。さらに足踏み式アルコール消毒液を設置。 ○ディスカバープログラム（講話・職場紹介）においては、受入れ人数を制限しソーシャルディスタンスを保ち実施した。 学習棟の利用状況（4月～10月） ▪ズー・スクール（講話） 18件 ▪職場紹介 5件 ○規制緩和となつてからは棟内こども休憩スペース（キッズライブラリー）は毎日消毒の上開放した。	Ⅲ		

	これまで実施されていた、NPO法人・ボランティア等との協働メニューを検証し、教育ポリシーを踏まえ継続・発展させていくべきものを選択し、戦略的な協働メニューを策定のうえ、教育普及アクションプログラムに反映させる。	25	○これまでの企業等との協働イベントを検証し、4つの企画を継続実施した。 ・動物と植物のつながりクイズ スタンプラリー（7/6～10/3・長居植物園） ・みつけてそろえてビンゴラリー（7/13～10/31・大阪トヨペット株式会社） ・カバのテツオ君と歯みがき教室&クイズラリー（11/7・大阪府歯科医師会、毎日新聞社、デンタルプロ株式会社） ・「プロQ学園」における獣医師による講話と吹き矢体験（11/27・あべのキューズモール東急不動産） ○今年度新規の協働イベントは、検証の上、次年度継続実施に向けて相手先と調整した。 ・天王寺動物園×セレッソ大阪 コラボ企画（9/14～10/10・セレッソ大阪） ・みんなあつまれ！かみしばいがいっぱい！～見て！作って！演じてみよう！～SDGs（えすでーじーず）って知ってる？動物の紙芝居をつくって暮らす世界を学ぼう（11/21・一般社団法人こども感動体験プロジェクト協会） ・給水スポット利用促進イベント「水色スイッチTOUGH&TRY」（11/14・大阪市水道局） ・明治安田生命×てんのうじどうぶつえん×てんしばみんなの健活スタンプラリー（11/23・明治安田生命・てんしば） ・「SDGsについて動物園で考える～生きものみんなが生活している持続可能な環境」（12/11・国際環境センター・大阪市環境局） ○現在のボランティア団体の活動を整理のうえ、ボランティアの今後のあり方について整理し、既存ボランティアに加え、新制度立ち上げ方針を決定した。 ○新たなNPO等との協働メニューの策定に向けて、連携相手先を模索した。	Ⅲ		
--	---	----	--	---	--	--

大項目 1－3	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立 （1）動物福祉に配慮した飼育の実践 （2）動物福祉に配慮した獣舎整備の推進
------------	---

中期目標	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立 動物の高齢化と獣舎の老朽化が進むなか、動物園の主役である動物たちに事故が起こらないように対策を講ずることはもとより、健康で幸せに暮らせる環境を創出することは、動物園経営における最重要事項であり、また、最低限の責務でもあることから、飼育管理機能を強化する。特に、これまでに培った飼育技術を着実に継承しながら、さらに高度化させるとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を着実に推進することで、動物福祉の充実を図り、天王寺動物園の魅力向上に繋げる。 (1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む。 (2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）動物福祉に配慮した飼育の実践						
動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	日常的な飼育管理を適切に行うとともに、定期的な検証を行い、適宜飼育作業マニュアルに反映させる。（【64】と関連）	26	○年２回の定期検証（３月、９月）において、現行マニュアルの検証を実施した。	Ⅲ		
	動物福祉倫理規程を踏まえて法人として環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングを適用する対象種を改めて検討（拡充）のう え、取組み方針（計画）を策定する。	27	○取り組み方針を策定し、それに基づきトレーニングを実施した。 エンリッチメント：対象60種中 54種実施 トレーニング：対象42種中 28種実施	Ⅳ		
	環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングに関する技術知識の共有を図る。（ミーティング・研修教育）	28	○職員向け研修を５回実施し、一般来園者向けの講演も１回実施した。	Ⅳ		
	動物福祉の観点から現病院のあり方を検討する。	29	○１０１計画をはじめとする各種計画（動物導入計画や獣舎整備計画など）と、必要とする治療・研究環境を考慮しながら、各担当（飼育・診療）との意見交換を行った。 ○今後の計画の基礎となる「動物福祉の観点からの動物病院のあり方」について方針をまとめた。	Ⅳ		
（２）動物福祉に配慮した獣舎整備の推進						
新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。	ふれあい家畜・小動物舎、ペンギンアシカ舎、ホッキョクグマ舎の計画に応じた設計や整備を着実に実施する。	30	○ふれあい家畜・小動物舎存置不明基礎撤去により工期遅れが発生したものの、令和４年３月より使用を開始し、令和４年４月末にオープンすることができた。 ○ペンギン・アシカ舎：予定通り施工開始した。 ○ホッキョクグマ舎：予定通り基本設計を完了した。	Ⅲ		
	獣舎整備計画について、独立行政法人の発注による優位性を踏まえ、改めてコスト縮減を検討するほか、必要に応じて計画内容の再検討も行う。	31	○コスト縮減（整備獣舎を集約化した工事発注による）を検討し、計画内容を再検討（具体的な動物移動や希少動物の導入、万博を見据えた整備）した。	Ⅳ		
	維持管理計画に基づく点検・補修を着実に実施する。	32	○四半期ごとの執行管理計画を整理した。 ○点検・補修は、必要性や優先順位を各担当と調整しながら適宜実施した。	Ⅲ		

	当面新築が予定されない既存獣舎について動物福祉の観点から実施可能な小規模改良個所を検討する。	33	○検討をすすめ、「小規模改修箇所一覧表」を作成した。	Ⅲ		
--	--	----	----------------------------	---	--	--

大項目 1－4	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 繁殖及び調査研究活動の推進 （１）繁殖の推進 （２）調査研究の推進と知見の共有
------------	---

中期目標	4 繁殖及び調査研究活動の推進 飼育動物の維持・充実とともに、生息域外保全という観点から種の保存に貢献するため、繁殖技術の向上を図るとともに動物の生態に係る各種調査研究活動を推進することで国内外の動物園からの信頼を高める。 (1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。 (2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）繁殖の推進						
種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取組む。 また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。	飼育方針文書における繁殖推進種である、クロサイ、カバ、ブチハイエナ、ジャガー、マレーグマについて、繁殖が行われるような環境を整えるなど、繁殖推進種ごとの具体的なチェックポイントを定め履行する。	34	○繁殖推進種について、繁殖が行われるような環境を整えるなど、繁殖推進種ごとの具体的なチェックポイントを定め、チェックシートを作成し、各飼育で共有し履行した。	Ⅲ		
	域内保全への支援活動としてツル類での人工授精手技の確立のため、先進的な園での実習や所内研修を取組む。	35	○雄の保定方法とマッサージの確立、精液の採取に成功した。	Ⅲ		
	大阪府産ニホンイシガメの保全活動に引き続き取組む。	36	○担当班ミーティングだけでなく保全リーダー会議でも検討を行い、ツル舎やアイファールバックヤードでイシガメを飼育、繁殖を行った。 ニホンイシガメ個体数 29匹（オス6、メス4、不明19）	Ⅳ		
	域内保全活動のための組織体制や保全種の活動について検討する。	37	○「保全リーダー」2名を新設し、保全の取り組みを強化した。 ・ニホンイシガメ 繁殖スペースの拡大が必要なため、クラウドファンディングを実施し資金を集めた。 ・コウノトリ 保全活動に取り組み一定の成果を挙げている近隣の兵庫県立コウノトリの里への協力をもって活動の一環とした。当園飼育の同種で繁殖、卵の提供による協力に取り組んだ。 ・キーウィ 当園のみの飼育種であり危惧種でもあるキーウィを取り組み対象とすることとした。	Ⅳ		
（２）調査研究の推進と知見の共有						
自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。	これまでの調査研究内容を整理し、今後、園が5年間で取り組むべき調査研究の対象を決定する。	38	○園が今後5年間で取り組むべき調査研究の方針として「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」を策定した。	Ⅲ		
	周辺の大学、研究機関と恒常的な連携関係を構築すべく、協力を依頼し、連携協定締結を目指す。	39	○すでに連携協定を結んでいる大学、研究機関との間で、独法化に伴う協定の再締結を行うとともに、現在共同研究などで協力関係にある各大学、研究機関などと、さらに包括的な連携ができるよう働きかけ、新たな連携協定の締結に取り組んだ。 ○協定更新および新規締結に至った大学等：北海道大学、国立科学博物館、帝京科学大学、岐阜大学	Ⅳ		
	ホームページ等で大学等の研究機関との協定による研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては公表し、知見の共有を図る。	40	○公表可能なものについて、ホームページ上に「天王寺動物園での共同研究の実績（一例）」として公表し、資料や学会発表などで内容についての情報でHP上にアップできるものは、随時掲載した。	Ⅲ		
	研究の成果については、研究会等において発表を行う。	41	○研究発表実績 動物の行動と管理学会2021年度大会、日本哺乳類学会など6件。動物の行動と管理学会2021年度大会では優秀発表賞を受賞した。	Ⅲ		

大項目 2－1	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律的な組織経営 （１）機動的な組織体制の構築 （２）適材適所の柔軟な人事配置
------------	--

中期目標	1 自律的な組織経営 (1)機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 (2)適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
1 自律的な組織経営						
法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。	研修やホームページ等で法人の目指す姿を情報発信・共有する。	42	○新規採用者に対し、法人の組織体制、定款、中期目標にかかる研修を実施した。 ○中期目標など園の方針を明確にし、法人における取組を情報をホームページ上で発信した。また、SDGs ポリシー、教育ポリシー、教育普及アクションプランもホームページ上で発信した。	Ⅲ		
	組織の役職や人員数の改編・補充については、定期的に棚卸をするなど点検する仕組みを構築する。	43	○派遣職員については建設局と派遣職員引き上げ計画について調整した。 ○令和4年度新規採用募集を計画し、計画に基づいて採用活動を行った。（内定者：事務職2名、技術職：1名、動物飼育専門員：3名） ○キャリアデザインシートの提出などを義務付け、将来的なキャリアプランを見据えた上での面談を全職員に押し行った。（アルバイト除く）	Ⅲ		
	R3年度実施の獣舎整備設計ははじめ業務実施にあたっては、外部の専門人材登用が必要かどうか検討する。	44	○今後の獣舎整備に備え、生態的展示に関する知見を有する専門家の意見を伺うために、アドバイザー契約の必要性を検討し、契約を行った。 ○今後予定しているクラウドファンディングでアイファアの改修を検討しており、昆虫類の生態と、昆虫類館・水族館での展示レイアウトの知見を有する専門家とのアドバイザー契約を行った。	Ⅳ		

大項目 2ー2	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起 （1）人材の確保・育成 （2）職員の能力向上と意欲喚起
------------	---

中期目標	2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起 (1)人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。 (2)職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(1) 人材の確保・育成						
人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。 また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。	人材確保に関する方針及び計画を定める。(人件費計画含む。)	45	○人材育成計画を策定し、それに基づき新規採用および職員のキャリアプラン形成のための各種取組を行った。	Ⅲ		
	全職種対象にオリエンテーションや導入研修を上半期に行う。	46	○オリエンテーションや導入研修を実施した。 ・4月1日 オリエンテーション実施(新規採用者対象) ・新規採用者研修実施(10日・18日) ※動物福祉倫理規定・感染症対策・法人組織・規程等・文書事務 ・法人組織規程研修実施(7月14日・21日) ※係長級以下の職員対象(新規採用者除く) ・コンプライアンス研修実施(8月23日・30日) ※係長級以下の職員対象 ・契約事務研修実施(2月24日・3月1日)	Ⅲ		
	飼育業務に従事する職員に現在の年間研修計画に基づく研修を行う。 また、テーマによってはその他職員も参加する。	47	○当初予定の基礎的な内容に加え、行動分析学や栄養学の研修を数多く実施した。 ・職員研修(飼育展示課) 「行動分析学」及び「栄養学講座」×3回 ・12月以降は1回/月程度、行動分析学についてはケーススタディによる勉強会を継続実施	Ⅳ		
	中期目標に掲げる重点項目(ホスピタリティ・ファンドレイジング)に関する研修計画を立案する。	48	○外部講師を招聘し、ホスピタリティ研修を実施した。 ○ファンドレイジングPTを結成し、クラウドファンディングを実施した。	Ⅳ		

	園として対象とする資格を定め、取得の支援を行う仕組みを構築する。	49	○資格取得支援にかかる制度を策定し、規程及び要綱を整備した。 ○飼育技師試験において当該制度の適用実績あり。	Ⅳ		
(2) 職員の能力向上と意欲喚起						
法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行なわれる仕組みを構築する。	初年度の運営を行いながら、直営時の制度課題を踏まえ法人の目標に沿った人事評価制度を策定し、評価を実施する。	50	○動物園業務に特化した評価方法、評価項目等を作成し、関連規程改正を行い実施した。評価結果を令和4年度の昇給、夏季手当及び年末手当に反映させる。	Ⅲ		

大項目 2ー3	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 効果的・効率的な業務執行 (1) P D C Aサイクルの確立 (2) I C Tの導入及び活用
------------	--

中期目標	3 効果的・効率的な業務執行 (1) P D C Aサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のP D C Aサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。 (2) I C Tの導入及び活用 I C Tを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(１) P D C Aサイクルの確立						
法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。	年度計画の各項目に対応した、進捗管理シートを作成する（5月末）	51	○年度計画進捗管理シートを作成し、各課の進捗を管理した。	Ⅲ		
	年度計画の進捗状況を毎月確認し、市ともその内容を共有する。その際、達成状況踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。	52	○年度計画の進捗管理シートを用い、毎月の計画進捗会議で進捗管理や懸案事項を情報共有できる仕組みを構築した。また、年間スケジュールを作成しPDCAサイクルを定着させた。 ○令和3年度の状況を鑑み、R4年度の年度計画については、重複する項目をまとめるなどの変更を行った。	Ⅲ		
(２) I C Tの導入及び活用						
事務効率化の観点から人事財務部門へのI C Tの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。	人事財務分野において導入した各種機器の安定運営を図るとともに、複数の職員が日常的に初歩的な操作を行えるような状態を目指す。	53	○定例給与・賞与事務にかかるシステム業者との調整システムの安定化を図った。 ○勤怠システムの入力マニュアルを作成し、勤怠制度等の手引き等も整備した。	Ⅲ		
	飼育部門については、初年度、診療分野に導入する動物カルテシステムを診療履歴のみならず、日常飼育やトレーニング分野へ展開する方針を策定する。	54	○電子カルテを導入し、導入後の運用についても整備した。 実装整備内容： ・トライアル運用 ・X-Ray、ドライケム等、周辺検査機器とのデータ取込み等連携構築 ・旧カルテからの情報移転作業 ○日常の飼育記録やトレーニング等の記録との連携を見据えた、方法、内容及び入力フォーマットの作成など実用化方針を策定し、方針に沿って運用を開始した。	Ⅲ		

大項目 3ー1	3 財務内容の改善に関する事項 1 収入の確保
------------	----------------------------

中期目標	1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
1 収入の確保						
事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンディングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。	入園料収入416百万円・入園者数143万人を目標とする。（令和3年度予算）	55	○毎月の理事会にて、入園料収入・入園者数を随時確認し、目標に対しての進捗状況を報告しながら、必要に応じて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にも配慮のうえ、チケット販売枚数の増加検討し、10月に増加した。	Ⅲ		
	（仮称）ファンクラブを組成し案内する。（第1四半期）	56	○ファンクラブを組成し、旧応援団の方や来園者への案内も行った。	Ⅲ		
	クラウドファンディングを開始する。（第1四半期）	57	○令和3年度3月からクラウドファンディングを開始した。	Ⅲ		

	渉外営業戦略（ファンドレイジングを含む。）を立案（第1四半期）し、同戦略に基づき渉外営業に着手する。	58	○ファンドレイジングPTを立ち上げ、営業用ノベルティも作成し、10月から営業活動を開始した。	Ⅳ		
	寄付額25百万円を目標とする。（令和3年度予算）	59	○クラウドファンディング実施やファンクラブ開始の案内等、寄附獲得の働きかけを行い、寄付額増に努めた。 令和3年度 入園料外収入 予算 2 5百万円 実績 4 3百万円（企業 23、個人 11、ファンクラブ 9）	Ⅲ		
	ホッキョクグマほか時宜を得たオリジナルグッズの開発・販売	60	○トレンド商品とのコラボ等で話題となり、集客、売上増に貢献した。	Ⅳ		

大項目 3－2	3 財務内容の改善に関する事項 2 経費の節減
------------	-----------------------------------

中期目標	2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
2 経費の節減						
日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。	漏水箇所の特定のために、これまでから行っていた各獣舎への水道子メーターの設置を完了させ、漏水が発見された箇所については、修繕を行う。（令和3年度に11か所設置し、全42箇所の設置が完了）	61	○令和3年度の11か所設置は獣舎整備の前倒しで不要となったが、過年度設置の検証で漏水の可能性のある箇所の特定ができ、令和4年度に調査を実施できる状況とした。	Ⅲ		
	設計業務に着手するホッキョクグマ舎について、直営時代と比べて1割のコスト縮減を図る。	62	○整備獣舎を集約化した工事発注によるコスト縮減を検討し、ホッキョクグマ舎を含む第一期リニューアル工事全体として直営時代と比べて1割減を図るべく、設計施工一括方式による工事発注（プロポーザル方式）をした。	Ⅲ		

大項目 4－1	4 その他業務運営に関する重要事項 1 内部統制の強化 （1）重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 （2）法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 （3）コンプライアンスの周知徹底 （4）個人情報等の保護 （5）内部監査及び監事による監査の適切な実施 （6）ネットワークセキュリティの強化
------------	---

中期目標	1 内部統制の強化 法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。 (1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
①重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築						
集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直しが可能な仕組みを構築する。	関係法令等を踏まえ、園の業務実態に応じた内部統制体制を構築する。（上半期）	63	○内部統制体制について、外部通報制度と合わせて体制を構築した。	Ⅲ		
	ヒヤリハット事例の共有や飼育作業マニュアルの実施状況の定期的な確認と、必要に応じた改訂を継続する。（【26】と関連）	64	○ヒヤリハット報告用紙を用いて事例を収集し、飼育作業マニュアルの改定を行った。 ○ヒヤリハット事例については、飼育連絡会および安全衛生委員会において都度情報共有を行った。	Ⅲ		

②法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用					
法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。	法人設立当初に整備した諸規程類について全職員に研修する。（上半期）	65	○令和3年度上半期に下記の研修を実施した。 ・オリエンテーション実施（新規採用者対象） ・新規採用者研修 ※動物福祉倫理規定・感染症対策・法人組織・規程等・文書事務 ・法人組織規程研修 ※係長級以下の職員対象（新規採用者除く） ・コンプライアンス研修 ※係長級以下の職員対象	Ⅲ	
	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）	66	○謝金規則等必要に応じて策定・改定を行い運用した。	Ⅲ	
③コンプライアンスの周知徹底					
法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。	当園のみならず、設立団体や他団体のコンプライアンス事例をもとにグループ討議を行うなど参加型の研修を最低年1回は実施する。	67	○係長級以下、課長職以上に分けて大阪市および他団体の事例をもとにコンプライアンス研修を実施した。	Ⅲ	
④個人情報等の保護					
個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。	各業務において個人情報を扱う事務の棚卸を行い、漏洩リスクのあるポイントを明確にし、各種事務における作業上の重要管理ポイントを策定する。（上半期）	68	○個人情報を扱う事務について整理のうえ、事務ごとに重要管理ポイントを作成した。	Ⅲ	
	重要管理ポイントが順守されているかどうかの点検を行う。	69	○各課において、重要管理ポイントの設定に基づいた事務が行われているか、机上やFAX・コピー機に個人情報を含む資料が存置されていないか抜き打ち検査を実施し、各課での運用状況の点検を行った。	Ⅲ	
⑤内部監査及び監事監査の適切な実施					
内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。	各業務から重要なリスクを発生させるおそれのある事象を選択し、内部監査を行う仕組みを制度化する。（上半期）	70	○内部監査を行う仕組みを制度化し、制度に基づき内部監査を実施した。	Ⅲ	
	内部監査・監事監査を実施し、必要に応じて内部統制環境の見直しを行う。（下半期）	71	○内部監査・監事監査を実施した。内部監査の結果では、内部統制環境の不備に起因する指摘事項はなかった。	Ⅲ	
⑥ネットワークセキュリティの強化					
個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。	情報セキュリティポリシー及びマニュアルを策定し、その運用状況を検証し、必要に応じて改定するとともに、設立団体並みの研修を実施する。	72	○先行独法（病院、博物館）の資料等を情報収集し、情報セキュリティポリシー及びマニュアルを作成した。 ○情報セキュリティポリシーおよびマニュアルに基づいて研修を実施した。	Ⅲ	

大項目 4ー2	4 その他業務運営に関する重要事項 2 来園者の安全確保
------------	--

中期目標	2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
来園者の安全確保						
園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。	今年度設計若しくは工事を実施するペンギン・アシカ舎、ふれあい家畜・小動物舎、ホッキョクグマ舎において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。	73	○来園者及び職員の安全対策への配慮として以下を確認した。 ①ふれあい・・・ 設計（法令等に基づくバリアフリー、消火設備など）、工事（仮囲い（万能堀）、車両出入り、歩行者通路など）の状況を確認 ②ペンアシ・・・ 同上 ③ホッキョクグマ・・・ 基本設計業者（株式会社 大建設計）、CM業者（株式会社 昭和設計）との協議にて、各種法令（バリアフリー、消火設備など）の遵守及び工事施工エリアを指示・確認した。	Ⅲ		
	獣舎及び園内施設定期点検を着実に行う。	74	○年2回の点検を実施し、点検結果を受けて計画的に修繕を実施した。施設ごとの点検・補修状況に漏れがないよう、各担当と的確に調整した。	Ⅲ		
	飼育動物脱走時の訓練を実施する。	75	○6月末までに猛獣脱出防止対策マニュアルの見直しを行い、10月に猛獣脱出を想定した訓練を実施した。	Ⅲ		
	受託事業者への安全意識の徹底に加えて、合同での訓練・研修等でより質の高い体制とするための方策を検討する。	76	○災害訓練と猛獣脱出訓練を統合し、園内事業者を含めて災害訓練に実施訓練実施後、アンケートを実施した。その結果に基づき、無線の更新および非常食等備品類の購入を行った。	Ⅲ		

大項目 4－3	4 その他業務運営に関する重要事項 3 職員の安全衛生管理
------------	---

中期目標	3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
職員の安全衛生管理						
労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。	産業医及び衛生管理者の選任、ハラスメント相談窓口の設置、職員健康診断、ストレスチェックを行うほか、関連する指針や手引き等を整備する。	77	○産業医および衛生管理者を選任し、月1回安全衛生委員会を開催した。 ○年1回の定例としてストレスチェックを実施した。 ○健康講座、破傷風・コロナワクチン接種機会提供も行った。	Ⅲ		

大項目 4－4	4 その他業務運営に関する重要事項 4 環境に配慮した取組の推進
------------	--

中期目標	4 環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
環境に配慮した取組の推進						
WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。	環境への負荷を低減し、野生動物の生息環境を守るため、WAZAの持続可能性戦略で示されたチェックリストを踏まえ、天王寺動物園の実行可能なSDGsへの取り組み方針を策定し、公表する。	78	○WAZAの持続可能性戦略、他園館や民間企業の取り組み状況に関する情報収集を行い、法人の取り組み方針案を作成した。 ○現在の取り組み状況と併せて、取り組み方針をHPにて公表した。	Ⅲ		

大項目 4－5	4 その他業務運営に関する重要事項 5 情報公開の推進
------------	---------------------------------------

中期目標	5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
情報公開の推進						
情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。	法令に定める決算・業務実績報告書等に加え、業務内容に関する資料（年報）を令和4年度から公表する。	79	○各課の担当割を周知し、各課において年報を作成。令和4年度5月に公表した。	Ⅲ		

大項目 4－6	4 その他業務運営に関する重要事項 6 BCPの策定
------------	--------------------------------------

中期目標	6 BCPの策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、BCP（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
BCPの策定						
地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。	直営時の対応マニュアルも踏まえ、事業継続計画を整理策定する。 （自然災害（地震・台風）、新興感染症（新型コロナウイルス感染症など））	80	○BCPを策定し、運用を開始した。 ○防災訓練等の結果を踏まえ、さらに内容の精度を向上すべく見直しを図った。 ○BCPに基づき、事業継続に必要な物品について買入し、配備した。	Ⅲ		

2. 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

※財務諸表決算報告書及び決算報告書参照

3. 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1億円 ＜想定される理由＞ 運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。	1億円 ＜想定される理由＞ 運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。	なし

4. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	なし

5. 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	なし

6. 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合、動物の導入及び動物福祉の向上、園内環境の質の向上、教育活動及び調査研究等の充実、人材への投資及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。	なし	なし

7. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則（令和3年3月31日大阪市規則第63号）で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績																											
（１）人事に関する計画 動物福祉に配慮した飼育を実践するほか、動物や職員の安全確保を図るため、令和３年度に職員を増員することで飼育管理体制の適正化に取り組むとともに、その体制について検証し将来的な人員配置計画を策定する。 （２）施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な整備に取り組む。	（１） 人事に関する計画 飼育管理体制を検証し、将来的な人員配置計画を検討する。 （２） 施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な整備に取り組む。	・組織の役職や人員数の改編・補充にかかる仕組みを構築した。 ・年度当初ヒアリングを行い、現行体制の検証、見直しを行った。																											
<table><tr><th colspan="3">中期計画</th></tr><tr><th>施設の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（設計・工事） ・適応の世界（設計・工事） ・アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事） ・新猛禽舎（計画・設計・工事） ・新夜行性動物舎（計画・設計・工事） ・アフリカの森ゾーン（設計・工事） ・日本の里ゾーン（計画・設計・工事） ・タイガの森ゾーン（計画・設計・工事） ・樹上の森ゾーン（計画・設計・工事） ・休憩エリア（計画・設計・工事） ・アジアの高地ゾーン（計画・設計・工事） ・動物病院・研究棟・調理場（計画）</td><td>4,640百万円</td><td>施設整備費補助金</td></tr></table>	中期計画			施設の内容	予定額	財源	・ホッキョクグマ舎（設計・工事） ・適応の世界（設計・工事） ・アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事） ・新猛禽舎（計画・設計・工事） ・新夜行性動物舎（計画・設計・工事） ・アフリカの森ゾーン（設計・工事） ・日本の里ゾーン（計画・設計・工事） ・タイガの森ゾーン（計画・設計・工事） ・樹上の森ゾーン（計画・設計・工事） ・休憩エリア（計画・設計・工事） ・アジアの高地ゾーン（計画・設計・工事） ・動物病院・研究棟・調理場（計画）	4,640百万円	施設整備費補助金	<table><tr><th colspan="3">年度計画</th></tr><tr><th>施設の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（設計） ・日本の森・里山ゾーン（計画）</td><td>26百万円</td><td>施設整備費補助金</td></tr></table>	年度計画			施設の内容	予定額	財源	・ホッキョクグマ舎（設計） ・日本の森・里山ゾーン（計画）	26百万円	施設整備費補助金	<table><tr><th colspan="3">実績</th></tr><tr><th>施設の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（設計） ・日本の森・里山ゾーン（計画）</td><td>26百万円</td><td>施設整備費補助金</td></tr></table>	実績			施設の内容	決定額	財源	・ホッキョクグマ舎（設計） ・日本の森・里山ゾーン（計画）	26百万円	施設整備費補助金
中期計画																													
施設の内容	予定額	財源																											
・ホッキョクグマ舎（設計・工事） ・適応の世界（設計・工事） ・アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事） ・新猛禽舎（計画・設計・工事） ・新夜行性動物舎（計画・設計・工事） ・アフリカの森ゾーン（設計・工事） ・日本の里ゾーン（計画・設計・工事） ・タイガの森ゾーン（計画・設計・工事） ・樹上の森ゾーン（計画・設計・工事） ・休憩エリア（計画・設計・工事） ・アジアの高地ゾーン（計画・設計・工事） ・動物病院・研究棟・調理場（計画）	4,640百万円	施設整備費補助金																											
年度計画																													
施設の内容	予定額	財源																											
・ホッキョクグマ舎（設計） ・日本の森・里山ゾーン（計画）	26百万円	施設整備費補助金																											
実績																													
施設の内容	決定額	財源																											
・ホッキョクグマ舎（設計） ・日本の森・里山ゾーン（計画）	26百万円	施設整備費補助金																											
（３）中期目標の期間を超える債務負担 <table><tr><th colspan="5">中期計画</th></tr><tr><th>施設</th><th>事業期間</th><th>中期目標期間 事業費</th><th>次期以降 事業費</th><th>総事業費</th></tr><tr><td>動物病院・研究棟・調理場</td><td>令和７年度 から令和10 年度まで</td><td>6</td><td>274</td><td>280</td></tr></table>	中期計画					施設	事業期間	中期目標期間 事業費	次期以降 事業費	総事業費	動物病院・研究棟・調理場	令和７年度 から令和10 年度まで	6	274	280	なし	なし												
中期計画																													
施設	事業期間	中期目標期間 事業費	次期以降 事業費	総事業費																									
動物病院・研究棟・調理場	令和７年度 から令和10 年度まで	6	274	280																									